

不定詞の最初の一步(名詞的用法)は、「to+動詞の原形で『～すること』という変換規則より先に、want to を「欲しいものリストの書き方」として出会わせるのが近道です。この授業案は、教師の「人生でやりたいことリスト」の公開という自己開示ネタを核に、I want to ～. を1時間で生徒の道具にします。教師の人間味が伝わる導入は、2学期中盤のクラスの空気づくりにも効きます。

この教材で解決できる悩み

- I want to のあとに動詞の原形が来る感覚が定着しない(× I want to played)
- 「名詞的用法」の説明で導入が文法講義になってしまう
- want ばかりで like to / try to への広がりが作れない

教材の概要

項目	内容
対象	中学2年(SUNSHINE 2 PROGRAM 6)
文法項目	不定詞・名詞的用法(want / like / try to ～)
形式	授業案A4・3ページ+やりたいことリストシート
所要時間	50分×1コマ
準備物	教師の「やりたいことリスト」5項目(本気で作るほど効く)

授業の流れ(50分)

導入: 先生のやりたいことリスト公開(12分)

「先生が人生でやりたいこと、ベスト5」をもったいぶって発表します。

1. I want to visit Hawaii.
2. I want to eat 100 kinds of ramen.
3. I want to speak Chinese.
4. I want to run a full marathon.(→ でも今は走りたくない、と本音を添える)
5. I want to see your graduation.(最後は少ししんみり系を1つ)

発表後、Which is No.1? とクイズにして内容確認。I want to が10回以上、意味と一緒に耳へ入る構成です。

気づき: 「したいことリスト」の書式(8分)

板書のリストを見せ、「want のあとに続く形は？」と問います。to+動詞の原形(変身しない形)がそろっていることを確認し、この日は「やりたいことは to+原形 で書く。これがリストの書式」の一言だけで通します。「～すること」という訳語や用法名は次時以降で十分です。

展開: 自分のやりたいことTop3(22分)

シートに自分の Top3 を書き(動詞バンクつき: visit / eat / buy / be / play / make...), ペアで見せ合いながら1位を紹介し合います。聞き手は Me too! / Sounds nice! / Why? のリアクションカードで反応。最後に「ペアのやりたいこと」を1文で報告(He wants to buy new shoes.)させると、三単現 wants to への変換まで自然に踏めます。

まとめ(8分)

数名の Top1 を全体で共有し、「実は want 以外もリストに使える」と like to(好きでしていること)/ try to(挑戦したいこと)を1例ずつ見せて次時へつなぎます。

教師のリストは「立派な夢」で固めないでください。「ラーメン100種類」のような俗っぽい項目が2~3割入っているほうが、生徒は本音のリストを書きます。逆に5番目にだけ本気の1項目を置くと、教室が一瞬静かになります。この緩急が自己開示ネタの設計術です。

定着・活用への接続

書いたTop3はそのまま次時の帯活動(ペアを替えてもう一度紹介)に再利用できます。活用フェーズは、当サイトの『運命の相棒をさがせ!』(like to / want to / hope to の分岐インタビュー)が同じ文型群の続きとして機能します。